

留学生センターアドバイジング・カウンセリング部門（IB館）報告 ～留学生のための支援活動と組織化について～

松 浦 まち子

【はじめに】

2012年度は、筆者の定年退職前の最後の1年であったことから、すべての場面で業務の引継ぎを念頭に過ごした。留学生センターの定員削減(1名)が、最年長の筆者の定年退職を待って実施することで数年間保留されていたため、定年退職後のアドバイジング・カウンセリング部門については、定員削減後1名となり、人員不足を覚悟しての引継ぎであった。まずは、教授職の後任を決め准教授ポストを削減することとした。

しかしながら、2013年2月に名古屋大学は「大学改革強化推進費補助金」(以下、改革経費)の内定を受け、一気に国際関係組織の改編を含む体制構築構想が表面化した。そのことは、同部門にとっては先細り状態解消の機会、むしろ拡大の機会となった。さらに、日本政府により障害者の権利に関する条約が批准され、新年度からは障害を持つ留学生を含め、大学としても障害者に合理的配慮をするための組織の可視化が必要となったことも留学生が関わる組織拡大の一要因となった。そのため、本来退職して消えるはずの筆者は、2013年4月以降、特任教授(非常勤)として国際組織再編に関わることとなり、同部門から離れるもののスーパーバイザー的役割を担うこととなった。同時に、同部門では育児休暇中の高木ひとみ特任准教授の代替教員田所真生子特任准教授の契約期間が2013年3月で終了であったが、改革経費による教員公募(国際交流協力推進本部所属特任准教授)を行い、結果的に、高木特任准教授の職場復帰の2013年4月には、田所特任准教授が所属は異なるが部門業務を継続することとなった。そのため、定員削減は実施され定員1名となったが、業務における人員不足は回避できた。

引継ぎに当たり、留学生センターアドバイジング・カウンセリング部門教授として行ってきた業務と留学生相談主事としての業務等をリストアップし後者に伝えた。学内委員会はもちろんのこと、地域社会の多

種多様な団体や個人との連携・協力等、さらに長年続けてきたプログラム等、あらためて留学生相談業務、留学生支援活動の多様さ、守備範囲の広さを知ることとなった。

【相談業務の全体的傾向】

平成24年度も、留学生からの個別相談よりは、むしろ全学的な立場での相談への対応が多かった。新しい在留管理制度への対応、国際交流会館チューター選考や研修、社員寮入居者選考、事故対応、留学生の就職支援に関わること、地域との交流、家族の日本度コース運営、留学生会との関わり等である。それら相談業務に対応するためには、学内教職員や学外関係者との連携や協力が欠かせない。相談業務が周囲の方々に支えられていることをあらためて感じた次第である。立場上、意思決定等判断を下さなければならない場面が多いが、判断材料としての情報は周囲の教職員や時には学生から与えられていると感じる。それらの情報をどう活かすどう対応するかは、これまでの経験と見識を拠りどころとした。

【入国・在留】

2012年7月9日より「新しい在留管理制度」が実施され、それに伴い、「在留カード」の交付、在留期間の長期化、再入国許可制度の変更、外国人登録制度の廃止など、留学生の在留手続きに大きな変更があった。そのため、留学生教育交流実施委員会では、10月入学に間に合うように「留学生ハンドブック」の「在留手続き」の訂正版作成を委員にメールで呼びかけ、8名の協力を得て新しい在留管理制度WGを立ち上げた。WGでは役割分担し議論を重ね、9月下旬日本語版と英語版の「新しい在留管理制度にもとづく在留手続き」を作成した。これは、2013年3月改訂の「留学生ハン

ドブック」にも掲載された。

【宿舎】

1. 国際交流会館

- ・国際交流会館チューターの選考・面談を行った。チューターの人柄を知るために、公募以外に、現チューターからの推薦も受け入れている。4月には20名のうち9名が卒業等で入れ替わった。年間を通じて数回チューター面接を行ったが、現チューターの推薦によるものであった。大学院生のチューターは海外へ長期調査・研修等で出かけることもあり、不在期間をどこまで許可するかなどチューター制度の課題について、研修という形で意見交換を行った。
- ・国際交流会館の入居オリエンテーションは、チューターが入居のルールやごみの分別について説明をしているが、パワーポイントでのプレゼンテーションは年々向上し、わかりやすくなっている。

2. 社員寮

- ・社員寮の入居希望者の面接を国際学生交流課の担当職員とともに行った。
- ・通常は、1月に公募される服部留学生会館で空室があり、7月に入居者面接を行った。19名の応募があり博士後期課程学生を優先して2名を推薦した。4月からの服部留学生会館入居応募者26名は順位をつけて推薦した。NGK インターナショナルハウスには15名枠に対し36名の応募があった。追加枠5名があり、20名を推薦した。その他、トヨタ自動車丘上寮、山田商会川間寮などの入居者面接を行った。

3. 民間宿舎

プリマベラ前山が、2013年3月をもって閉館することに伴い、現在入居中の学生3名のうち2名がNGK インターナショナルハウスに応募し、選考の結果入居できることとなり路頭に迷わずに済んだ。出身国のバランスが厳しいNGKの入居者選考であるが、これらの学生の場合はそれが幸いした。NGK入居日の関係で、本来3月末退去を1週間程度延長していただい

た。プリマベラ前山については、1996年4月以来、17年間に亘って名古屋大学の留学生多数がお世話になった。宿舎不足で大変な頃に名古屋大学の留学生のために建設していただき、入居条件も含め留学生の立場を考慮した理想的なアパートであった。

【医療・健康】

11月、留学生の大きな事故が二つ起きた。一つは、留学生の高所からの転落事故であり、所属部局の指導教員や留学生担当教員、国際学生交流課、障害学生支援室などがチームで対応した。両親が来日・滞在し学生の入院・回復を見守った。治療費を含め経済的支援が必要であり、名古屋大学留学生後援会、愛知留学生会後援会の緊急援助金、「鶴基金」等に申請して急場を凌いだ。もう一つは、自転車と自動車の交通事故である。指導教員が海外渡航中、留学生担当教員不在の時期に起きた。当初、レントゲンでは特に問題はなかったものの、数カ月たっても頭痛、吐き気、目眩が治まらず服薬を続けている。アルバイトの再開も思うようにならない。時期的に、修士論文仕上げの大切な時期であったが、症状が改善しないため論文執筆ができず留年せざるを得なかった。学費や生活費を心配しながらも、保険会社との交渉が難航を極め、新年度に持ち越すこととなり、留学生には身体的苦痛のみならず、精神的、経済的にも辛いものとなった。

【留学生の就職支援】

留学生センターアドバイジング・カウンセリング部門では、留学生の就職支援を行っている。エントリーシート添削や面接への心構え等の就職相談はもちろん、留学生採用を考える企業からの相談や留学生に特化した求人情報の提供、個別の会社説明会を開催している。4月以降、留学生から内定報告があるのはうれしいものである。また、昨年台風で中止となった「留学生対象学内合同企業説明会」が7月に開催され、名大の学生41名が参加し、その時の出展企業に十数名採用された。その他、新聞社や独立行政法人労働政策研究・研修機構等、学外機関からの留学生の就職に関する意見聴取に協力した。後者については2013年3月「留学生の就職活動－現状と課題－」と題した調査報告書が刊行され、匿名扱いではあるが、名古屋大学の取

2012年度 名古屋大学留学生の就職支援活動

No.	項目・事業名	日程	件数・参加者数	備考
1	外国人留学生のための就職活動支援コース (留学生センター主催)	2012年9月26日～12月22日	登録者44名(定員25名) 中国36名, 韓国3名, ウズベキスタン3名, ベトナム2名	自己分析(合宿), 企業研究, 応募書類, 面接訓練, マナー講座等
2	学内会社説明会 (留学生センター主催)	2012年5月～2013年1月	7社	参加留学生 合計54名
3	留学生対象学内合同企業説明会 (就職支援室主催)	2012年7月21日	名古屋大学生41名	参加企業30社
4	名古屋大学企業研究セミナー (就職支援室主催)	2012年12月～1月	3回(6日間)	CDO(*)と連携して留学生相談コーナー担当
5	企業からの留学生採用・求人相談	2012年4月～12月		中国との関係不安定なため, 東南アジア出身学生への求人相談が増加傾向(インドネシア, タイ, フィリピン等)
6	留学生インターンシップ事業への協力	夏休み, 春休み	夏: 8名実施/17名エントリー(実施8名のうち2名辞退) 春: 募集中	夏: 愛知県主催 春: 愛知労働局主催 インターンシップ支援協議会委員
7	留学生からの就職個別相談 (随時対応)	2012年4月～	128名(延べ)	CDOと連携
8	先輩留学生(社会人)紹介		数件	希望に応じて同国出身先輩留学生(社会人)を紹介
9	地域の留学生対象就職関連セミナーへの協力, 地域の外国人留学生対象合同企業説明会参加者募集協力		多数	・GNI: インダストリアルツアー(2/8実施)

(*) CDO キャリアデベロップメントオフィス

り組みや担当者の意見が反映されている。

また, 1月と3月には高度外国人材とされる留学生の就職をテーマとしたフォーラムが経済産業省や厚生労働省が主催して学内外で開催され, 筆者がパネリストとして話す機会をいただいた。

2012年度の留学生の就職支援活動をまとめると上の表のとおりである。

1. 就職活動支援コース

(2012年9月26日～12月22日の10回)

2012年度の就職活動支援コースは, 「平成24年度第1回名古屋大学全学同窓会大学支援事業」に採択され, その助成金で実施した。

当初, 定員25名で募集したが, 登録者は44名(中国36名, 韓国3名, ウズベキスタン3名, ベトナム2名)だった。講義室サイズに余裕があったため希望者は全員受け入れた。日本企業に就職を希望する学生にとって「就活」の基本から学べる講座であり, 就活という



9月26日 オリエンテーション (IB 電子情報館講義室)



9月30日 合宿で作ったドリームマップ (中津川研修センター)

長期に亘る、しかも自分から動かないと何も成果が得られない不慣れな活動に指針を与え、共に頑張る仲間と知り合う面でも有意義であった。

受講生は、今何をしなければならぬか？自己分析の必要性、企業分析方法、合同企業説明会参加の心構え、履歴書やエントリーシート（ES）の書き方、企業人事はESや面接で何を見ているのか、マナー、姿勢等、実践的な知識や情報を得て、日本の「就活」を理解した。

開講当初、戸惑いの表情を見せていた受講生は、一

泊二日の合宿で仲間との連帯感を持ち、回を重ねるごとに打ち解けた雰囲気となり、真剣で活発な意見や質問が出るようになった。最終日のマナー講習では、スーツ姿のきりっとした受講生が頼もしく見えた。

2. 企業からの留学生採用相談と会社説明会の開催

次の表のとおり、7社の個別の学内会社説明会を実施し、54名が参加した。個別の会社説明会は、企業の要望に応じて開催している。中には、大手企業の現地



12月22日 スーツ姿で姿勢を正してマナー研修(CALEフォーラム)



12月22日 就活準備 OK (コース最終日)

名古屋大学留学生センター主催 留学生のための就職活動支援コース 受講生募集

日本企業での就職及びキャリア形成を希望する留学生の就職活動を支援するコースです。

■日時: 2012年9月26日～12月22日 水曜日(18:30～20:00)
※上記日程に参加できない方は、名城大学(最寄り駅:地下鉄 塩山駅)で開催する同じ内容の土曜クラス(10:00～12:30)に振り替える事が可能です。申込時にお知らせ下さい。

■場所: 名古屋大学 田 電子情報館中棟113講義室
■受講対象: 日本企業に就職する意思のある名古屋大学に在籍する留学生
■受講定員: 25名(先着順)
■講師: 熊川 謙 敬清氏 他 <http://www.careerkeisel.com>

元留学生で自動車部品メーカー人事経験者。留学生の採用経験豊富。2005年より経済産業省、日本学生支援機構、大学等に協力し、留学生の就職支援活動に従事。メール相談「就活 Help Desk」を開設。

■受講料: 無料(但し、合宿期間中の食事代金1,650円(3食)と保険料100円の計1,750円は自己負担)
■注意事項: ①このコースは全て日本語で行われます(日本語能力が必要)。②プログラムは就職活動に合わせて考えられていますので、全部受講することを勧めます。③受講後、日本企業に内定した場合は、留学生センターに報告してください。

実施日	項目	形式	内容
① 9月26日(水) 18:30～20:00	オリエンテーション	講義	外国人留学生の就職活動について 合宿準備・説明
② 9月29日(土) ～30日(日)	キャッチ合宿(中津川研修センター) 自己分析	実習	自己分析の必要性と進め方 方向性の確認、Dream Map 作成の基本 Dream Map 作成・発表
③ 10月10日(水)	自己分析	講義	自己分析の確認
④ 10月31日(水)	企業分析 I	講義	企業分析の必要性と進め方
⑤ 11月14日(水)	企業分析 II	講義	志望企業選び・企業分析実践
⑥ 11月21日(水)	応募書類準備 I	実習	エントリーシート(ES)、履歴書(CV)の作成
⑦ 11月28日(水)	応募書類準備 II	実習	競争力のあるES、CV に仕上げ
⑧ 12月 5日(水)	面接訓練	講義	選考の基本・心構えの習得
⑨ 12月12日(水)	グループディスカッション訓練	実習	グループディスカッションの訓練・実習
⑩ 12月22日(土)	マナー合宿研修(合宿)	実習	ビジネスマナーの習得

※ 期間中に企業見学、企業との交流会を別途予定しています。
※ 学習の相乗効果を上げるため、他大学の学生と一緒に研修を実施することがあります。
※ 別途、個別カウンセリングも有り、内定までフォローします。

◆昨年度受講者の声◆
 > 自信を持つようになりました。就活を真剣にやってみようという気持ちになりました。
 > 個別フォローで細かい一人一人の進捗状況と問題を共有し、一緒に解決してくれるのが嬉しい。

◆受講者の主な就職先(内定先) 順不同 ◆
 パナソニック電工株式会社、株式会社小松製作所、ソニー株式会社、シーブ株式会社、株式会社東芝、セイコーエフソン株式会社、アイシン精機株式会社、フラガー工業株式会社、株式会社クラリ、株式会社コト、株式会社しまむら、同合興機株式会社、イビデン株式会社、株式会社 LIXIL、日本コンピューターシステム株式会社、日本特殊陶業株式会社、オオサキメディカル株式会社、株式会社バフアロー、株式会社スズケン、河村電気株式会社、アクセンチュア株式会社 など

◆参加申し込み◆
 名古屋大学留学生センター アドバイジング・コンサルティング部門(松浦)へ
 氏名・所属・学年をメールしてください。 matsuura@ecis.nagoya-u.ac.jp

2012年度 就職活動支援コース案内

2012年度 学内会社説明会実施リスト

No.	会社名	実施日	参加者数(名)	備考
1	株式会社マキタ	2012/5/9	3	中国3名
2	デンソーベトナム	2012/5/23	1	ベトナム1名
3	株式会社アルペン	2012/5/30	3	中国3名
4	アイシン・エイ・アイ株式会社	2012/6/13	2	中国2名
5	三菱商事インドネシア	2012/12/6	8	インドネシア人学生対象8名
6	アイシン精機株式会社	2013/1/16	28	中国20名、マレーシア2名、ロシア、ウズベキスタン、インドネシア、フィリピン、韓国、ベトナム各1名
7	三井住友信託銀行	2013/1/23	9	中国7名、フランス、韓国各1名
	7社	随時	合計 54名	9か国

拠点から直接留学生の採用相談があるが、これは大手企業は、一般に留学生の特別枠を設けていないため、現地拠点が出身国を限定して募集するものである。国に帰りたい、あるいは帰らなければならないが、日本との関係も維持したい学生には向いているかもしれない。現地で求職活動した帰国学生が採用されたケースもあるようだ。この求人は日本国内ではどの企業が募集しているか見えにくく、学内の会社説明会は留学生と企業の貴重な出会いの場となっている。その他、海外の企業が日本に留学している自国の学生向けの会社説明会を学内で開催したいと申し出があった時にどのように対応すべきか、学内の就職担当者連絡会で質問させていただいた。海外企業については、担当者の知識不足で、信頼できる企業かどうか見極めることが困難なため、学内開催には慎重にならざるを得ない。

3. 外国人留学生のためのインターンシップ

愛知県では、留学生に対して夏のインターンシップは愛知県主催、春のインターンシップは愛知労働局が主催して毎年行っている。5月に事前学内説明会（約60名参加）を開催し、留学生の参加を呼び掛けた。夏のインターンシップは、留学生のエントリー数59名（14大学）、マッチング成立数24名（10大学）、企業はエントリー数25社、成立数16社であった。名古屋大学からは17名エントリーし、8名がインターンシップを実施した。夏季インターンシップ報告会が9月末開催された。春のインターンシップは、愛知労働局所轄内では49名（15大学）エントリーし、10企業において21名（11大学）がインターンシップを実施した。名古屋大学からはエントリー5名、インターンシップ実施1名であった。エントリーが多い割に成立率が伸びないのは、留学生側に有名企業志向があり、中小企業への

関心が低いことが考えられる。また、企業に対しても体験を聞く機会を設けて留学生のインターンシップをイメージしやすい環境を作ることも大切である。そのため、外国人留学生インターンシップ支援協議会（愛知労働局主催）では、モデルプログラム作成の提案もあった。さらに、2016年卒の学生から就活開始を3年3月とする要請が政府から出ており、これを念頭において、1・2年次のキャリア教育としてインターンシップを早目にも実施することも一案である。

【地域交流】

1. 地球家族プログラム（報告：小倉みどり）

2011年度は、全学の留学生を対象に、週末や祝日を利用した短期のホームステイプログラムを年間8回実施した。参加留学生数は延べ169名であった。地球家族プログラム企画のもののほか、工学部自動車工学サマープログラム、自治体の国際交流団体からの依頼に応じて実施した。2012年度も、NC州（米国）高校生と名大付属高校の交流プログラムにおけるホームステイのためにオリエンテーションを実施した（6月）。各プログラム実施に当たっては、事前にオリエンテーションを行い、注意事項の説明、ホストファミリーと連絡を取り合うこと等を伝えて、楽しいホームステイになるよう支援している。2012年度の新しい試みとして、1月に留学生センターラウンジで「ホームステイ写真展」を開催し留学生のみならず、教職員にも好評であった。ホームステイ後の感想文のご意見は、プログラム改善に反映させている。帰国した留学生との交流も続いていて、母国での結婚式に招待されたホストファミリーもいた。

2012年度 ホームステイ実施状況

回数	日程		実施団体	留学生参加人数（名）
1	4/28-4/30	2泊3日	地球家族プログラム	24
2	5/2-5/5	3泊4日	津市国際・国内交流室	10
3	6/25-6/26	1泊2日	工学部サマープログラム	22
4	7/28-7/30	2泊3日	地球家族プログラム	17
5	11/23-11/25	2泊3日	地球家族プログラム	48
6	12/14-12/16	2泊3日	知多市国際交流協会	6
7	12/22-12/23	1泊2日	地球家族プログラム	28
8	3/23-3/24	1泊2日	地球家族プログラム	14
合計				169

2. 名古屋商工会議所

平成24年度留学生産業視察会(年3回)の開催にあたり参加者募集に協力した。この産業視察会は、当地域の誇るモノづくりを見学・体験して理解を深め、将来に向けて外国諸国との交流促進を図るものである。第1回は9月12日中部国際空港と博物館「巢の里」、第2回は11月10日メッセナゴヤ2012とトヨタテクノミュージアム「産業技術記念館」、第3回は3月21日森永乳業(株)中京工場と(株)松本義肢製作所を視察した。計56名の留学生(他大学を含む)が参加したと報告があった。

3. 岐阜市観光コンベンション課

岐阜市より、留学生対象の鶴飼見学の招待があり、6月末と7月初旬に2回開催され、名古屋大学の留学生計83名が、川沿いの美しい風景とともに日本の伝統漁法を見学した。豊田講堂前からバスの送迎付きで、帰りは夜10時ごろになるものの留学生には珍しい鶴飼を楽しむよい機会であった。その前年は秋に実施したが天候に左右され、川の増水等で日程変更を余儀なくされたことから、夏前の実施となった。

4. その他

- ・市内の小中学校、高校への留学生講師派遣や市民からの文化交流への留学生参加募集等に対応した。
- ・台湾嘉義大學からの訪問団(約30名)について、台湾の研究者から相談があり国際企画課へ対応を依頼した。当日(9月上旬)、留学生センター教員や来訪学生の専門分野を考慮した生命農学研究科留学生担当教員が名古屋大学の説明をした。

【家族】

「留学生の家族の日本語コース」は、「事業報告」で詳細を述べたのでここでは省略する。

【留学生会】

1. 名古屋大学留学生会 (NUFSA)

2012年度の会長は、前期はコンゴ出身のクリスチアンさん(GSID)が継続した。後期は、中国の姚瀟さん(情報科学研究科)が引き継いだ。春のバザーは、昨年度の反省から主催者の昼食をおにぎりにして経費を抑えたが、近藤産興(株)から布団セットや冷蔵庫等のご寄付があり純益は約13万円となった。これらの利益は、留学生会の行事で留学生に還元されている。日本人の贈答習慣がギフトカタログを利用することが多くなっているため、バザーへの寄贈品が年々少なくなっている状況で、バザーの在り方については今後の課題である。NUFSAは国際交流会館の入居オリエンテーション等でNUFSAの活動を紹介している。12月NUFSA会計担当者とともに会計報告書を作成し、名古屋大学留学生後援会から補助金30万円を得た。NUFSA事務局(レジデンス東山)にある電話について、過去に電話料金未納のため切られてしまい、バザー時に困った経験から、以来電話料金はNUFSAから留学生相談主事(筆者)が1年分を預かり、毎月支払っていたが、今後に向けて、NUFSA口座からの自動引き落としの手続きをした。電話の契約者がすでに卒業した留学生名だったことや、NUFSAの口座名義人の変更の必要があり手間取った。

2. 愛知留学生会(AFSA)と愛知留学生会後援会

2012年度の愛知留学生会会長は名古屋工業大学のコーサラさん(スリランカ、名工大)であった。愛知留学生会後援会では、事務局を約10年間担当してきた筆者の退職を念頭に引き継ぎの1年だった。事務局1名、会計は一般会計と緊急援助金会計の2名に引き継いだ。春の国際交流バス旅行は104名が参加して「野外民族博物館リトルワールド」を訪れた。秋は、水引工房とリング狩りに130名が参加した。いずれも日本人学生と留学生の交流を目的としたものでバス3台で実施した。秋は「三菱UFJ国際財団」から10万円のご援助をいただいた。

また、恒例の12月の「第48回留学生の夕べ」は、名古屋国際センター共催により実施した。「留学生の夕べ」の横断幕を新規作成したが、そのデザインはAFSA



「第48回留学生の夕べ」
AFSA 会長挨拶と学生が考案した新しい横断幕

メンバー等学生が考案した。入場者と主催者合わせて306名が来場し盛大で楽しいイベントとなった。留学生による母国の歌、踊り、文化紹介や母国料理は大好評であった。参加留学生のパフォーマンスは年々本格的なものとなっているが、主催者の学生たちの責任ある活動も高く評価したい。

愛知留学生会後援会の「緊急援助金」事業については、「名古屋を明るくする会」からの寄付金を原資として愛知県内の留学生11名（6大学）に緊急援助金（約93万円）を支給し、緊急に経済的困難に陥った留学生を支援した。申請者が少ないが、緊急事態により経済的に困窮する留学生が少ないとは思えないため、今後は事業の有効活用のための方策を考えていかなければならない。

3. 中国留学生学友会

長年の懸案であった「鶴基金」の管理委任について、国際学生交流課、中国留学生学友会、さらに当時の関係者間で意見交換し、結果として、2013年3月名古屋大学留学生後援会に管理委員会を設置して「鶴基金」の管理を委任することになった。委託先についていろいろ考えたが、継続してきちんと保管できること、いざという時に迅速に支出できることが必要であり、名古屋大学留学生後援会に託すことになった。「鶴基金」の正式名は「鶴中国留学生緊急救援基金」で、1993年8月の「毒きのこ事件」の際、日本全国から寄せられた義援金から必要経費を除いたものを当時の中国留学生学友会が日本の童話「鶴の恩返し」を意識して命名



「第48回留学生の夕べ」
主催者メンバー（AFSA, ACE, ICC, 後援会, NIC）

したものである。それ以来、約20年間留学生相談主事（筆者）が保管してきた「鶴基金」であるが、今後とも留学生の緊急時の支援に役立つことを願っている。

【その他】

名古屋大学新任教員研修「国際化対応に関するセミナー」（4/6）、名古屋大学新規採用職員研修「異文化対応について」（4/18）等、さらに、高等教育研究センターと協力して教員向けセミナー「はじめて留学生を受け入れる - 教員と留学生の信頼関係をどう築くか」（9/4）を開催し、名古屋大学の国際化の推進のための研修を行った。

【おわりに】

1990年2月に経済学部留学生相談室担当者として着任して以来、約23年に亘り一貫して留学生相談業務に従事してきた。この仕事のお蔭で、海外からの多くの方々に出会うことができ、多くの異なる文化や考え方に触れることができた。留学生は異なる文化背景を持つものの、人としての感性は共通である。年月とともに留学生との年齢差は広がっていったが、人生の先輩としてのアドバイスも含めながら、一人ひとりを大切に考えて助言してきた。さらに、留学生の身近にいる者として、留学生と日本社会を繋ぐ役割も果たしてきたつもりである。最後の1年間も、私自身学びの多い1年であったことに深く感謝申し上げたい。